

條風会十周年

平成二十六年二月二十二日(土)

午後十二時半始(開場十一時半)

十四世喜多六平太記念能楽堂

條風會

喜多流能楽

Jo-fu-kai

能 鞍馬天狗 友枝 雄人

狂言 禁野 山本 則秀

能 八島 金子敬一郎
弓流 那須

時をかさね あらたに たち起こる風

次回予告

平成 26 年 9 月 13 日 (土)

能 三井寺 狩野了一

能 実朝 内田成信

チケットのお申し込みは

- ◆ 一般 6,000 円 (前売り 5,000 円)
- ◆ 学生 4,000 円 (前売り 3,000 円)
- ◆ 座席指定券 ————— 2000 円

お申込み・お問合せ先

喜多能楽堂 Tel ——— 03(3491)8813

狩野 了一 Tel Fax 03(3301)9788

友枝 雄人 Tel Fax 03(5950)4543

内田 成信 Tel Fax 03(3721)3311

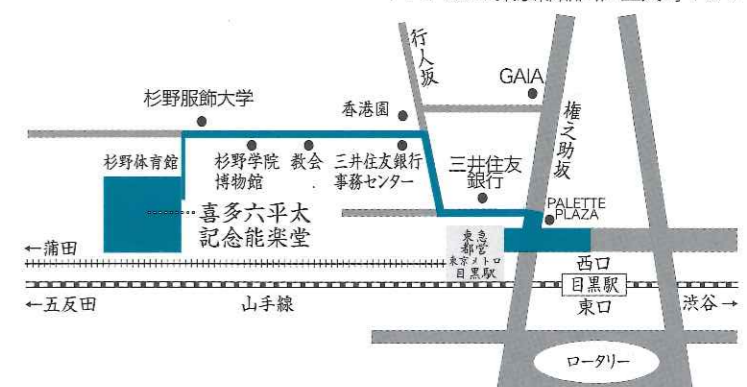
金子敬一郎 Tel Fax 048(432)6620

E-Mail ————— ticket@jo-hu.net

Web ————— http://jo-hu.net/

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎 4-6-9



JR 線、東急目黒線、都営三田線、営団南北線ともに目黒駅下車、徒歩 7 分

※当能楽堂には駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います
※許可無き写真撮影・録画・録音等は固くお断りいたします

番組

仕舞 笹ノ段 狩野了一
水室 内田成信

地謡 友友友 佐藤枝枝真陽
塩津圭介 人

シテ連・男 佐々木多門
後シテ・源義経の霊 金子敬一郎
前シテ・老翁

能 八島

弓流 寶生欣哉
那須 大日方 寛
則久英志

アイ・屋島の浦人 山本東次郎

大鼓 龜井広忠
小鼓 曾和正博 笛 藤田貴寛

後見 内田安信
粟谷明生

地謡 塩津圭介 粟谷大
内田成信 友枝昭世
佐藤陽村 定

狂言 禁野

シテ・大名 山本則秀

アド・交野の男 山本則孝
アド・交野の男 山本泰太郎

休憩 二十分

仕舞 富士太鼓 塩津哲生

地謡 粟内粟 狩野成 谷田浩之
粟谷充雄 了信

15:00頃

能 鞍馬天狗

後シテ・大天狗 友枝雄人
前シテ・山伏

ワキ連・從僧 矢野昌平
ワキ東谷の僧 福王和幸
ワキ連・從僧 村瀬堤

大鼓 國川純 太鼓 觀世元伯
小鼓 觀世新九郎 笛 一噌隆之

アイ・西谷の能力 山本則俊
アイ・木の葉天狗 山本凜太郎
アイ・木の葉天狗 遠藤博義

後見 塩津哲生
金子敬一郎

地謡 友枝真也 狩野了
粟谷浩之 中村邦生
佐藤寛泰 長島靖嗣 茂

終了予定 午後四時半頃

八島 弓流・那須 (やしま ゆみながしなす)

都の僧が、西国行脚の途中、讃岐国八島の浦にやってきます。そこへ漁翁と漁夫が釣を終えて帰ってきます。旅僧が漁夫に宿を求めると、都の人と聞いて懐かしがり中に招き入れます。そして僧の求めに応じて、八島の合戦での義経の姿、景清と三保谷の鍛引きなどを語り、あまりに詳しく語るの、僧が不審に思つて名を尋ねると、翁は義経の幽霊であることをほのめかして消え失せます。

(中人)そこへ所の者がやってきて、そこにいる僧をとがめます。旅僧はその者が本当の塩屋の主と知つて八島合戦の物語を所望します。語り終えた塩屋の主は、僧の話から先の漁翁は義経の霊であろうと判断します。その夜、僧の夢の中に甲冑姿凛々しい義経の幽霊が現れます。そして八島の合戦で、波に流された弓を敵にとられまいと捨て身で拾い上げた「弓流し」の有様を再現し、修羅道での絶え間ない闘争ぶりを見せたかと思つと、夜明けと共にその姿は消え失せます。

前段では、春宵の八島の長閑な風物、古戦場の哀愁、老翁の懐古談。後段では雄々しくも気品のある戦物語と、対照が見事で勝利者のさわやかな印象が全編に漂っている傑作です。前後それぞれ床几に座つての語りがあります。前段は老人の語りなので所作は少なく、見た目は淋しいのですが、始めはシテ一人、中ほどはシテ、ツレの掛け合い、後半は地謡と、語り物の面白さを活かした聞かせどころになっています。後段は壯者の語りで勇ましく、続くカケリからキリにかけては、謡曲文中屈指の名文とされており、その文意に合わせて息もつかせぬ型どころが続きます。

「弓流」義経が取り落とした弓を拾いに行く場面は、通常は謡のみにて描写されますが、「弓流」の小書がつくときは型付きで演じられます。

「那須」有名な扇の話を源義経・後藤実基・那須与一の二人三役で語る、狂言方の重習です。

禁野 (きんぎょ)

交野(かたの)というところは禁野区「禁野」となっていますが何者かが狩りをしている様です。交野の男たちは彼を捕まえようと待ち構えますが相手は腕が立つ様なので一計を案じます。そこへ狩りの出で立ちで大名が来たので話しかけると、大名は禁野の謂れを語り、しかしさる子細があつて自分は許されているのだと言ひ張りまます。そこに獲物が現れた様ですが大名には場所が分かりません。交野の男は助け舟を出しますが……

鞍馬天狗 (くらまてんぐ)

鞍馬山の奥、僧正が谷の山伏が鞍馬寺の花が見頃と聞きやつてきます。その頃、西谷の能力が東谷に花見招待の使いに出ますが、途中で東谷の僧が稚児をつれてやってくるのに出会い同道します。一行は西谷で満開の桜を眺め、能力も稚児たちの為に小舞を舞います。そこへ山伏が忽然と現れたため、輿をそがれた一行は花見を止め帰つてしまいます。賑わいの失せてしまった花の下、一人残された沙那王(牛若丸)は山伏と一緒に花を見ようと声をかけます。すると山伏は沙那王が源氏の公達であることを知っており、今の境遇を不憫に思い、花の名所を案内して廻ります。沙那王が不思議に思いその名を訪ねると、山伏はこの山の天狗と名乗り、兵法を授けることを約束して飛び去ります。

(中人)山の奥では小天狗が沙那王の相手の為に稽古をします。やがて沙那王は兵法稽古のために長刀を持ちやつてきます。そこへ大天狗が日本中の天狗を従え現れます。そして師を敬う張良の故事をかたり、兵法の奥義を伝え、これから身の上を守ることを約束して消えてゆきます。

前場ではワキ・狂言・稚児が大勢出る花見の場面の賑わいと、シテと子方二人きりになつてからの寂寥。桜の名所教え。正体を現し嵐のように去つてゆく所など、景色や心の陰陽を描写して変化に富んでいます。後場では、天狗本来の姿にふさわしい力強さと豪放な様をお楽しみください。